

## シニアを魅了するアルプス山行 (17年間)

9期 鍋島 武



Takeshi 加岳井武志  
1947年(昭22)生 喜寿

Takeshi 鍋島 武  
1944年(昭19)生 傘寿

若い頃に同じ会社で働いていた二人のシニアが定年退職後の2008年から17年間、毎夏(特段の事情年を除く)、南北アルプスの山行を継続実施しています。今年、喜寿と傘寿にあたる二人は今夏も南アルプスの北岳・間ノ岳の山行を楽しむことができました。今夏と過去のアルプス山行のいくつかを紹介します。

### 2024年夏 北岳・間ノ岳 喜寿と傘寿が楽しむ天空稜線散歩

この二人が7、8年前から、『喜寿と傘寿の年に、北岳に登る』という大目標を共有し、平素から日帰り山行を繰り返し、また筋トレ・ストレッチで体調管理に励んできました。今夏、その目標を達成できました。

- 一日目 広河原→白根御池小屋
- 二日目 白根御池小屋→草スベリ→北岳→北岳山荘
- 三日目 北岳山荘→間ノ岳→北岳山荘(天空の稜線)
- 四日目 北岳山荘→北岳→広河原

#### 初日 大粒の雨に見舞われてスタート

広河原バス停に降り立ち、出発準備を進めている時に、突然、大粒の雨が降り出しました。KUWV時代に『鍋ちゃんは雨男』という晴れある称号をいただいたこともありましたが、それにしても、意地悪な山の神がいるものですね。

スタートから雨に負けてはおられません、とにかく雨具をつけて、出発です。最近の雨具は、KUWV時代のペラペラのポンチョとは違って、大粒の雨や風には負けない優れものです。雨具に助けられ、無事に白根御池小屋に到着。(山の神は実際には優しく、この日以外は雨具不要でした)

#### 二日目 「傘寿で北岳」を達成 バンザイ!

出発時には、幸いにも雨が上がり曇り空。2時間前後の樹林帯の急登を登りきると、そこには草スベリのお花畑が広がっています。苦しいシニアの身体にエ

ネルギーを補給してくれるのはきれいな高山植物です。

お花畑を過ぎた後は、北岳から伸びる岩稜の尾根をゆっくりゆっくり進みます。右の谷の向こうから仙丈岳が『頑張れ!』、そして前方の北岳頂上が『その調子で前に進め!』と声援を送ってくれました。

白根御池小屋を出発して5時間、ついに北岳山頂に到達。長年の目標を達成した瞬間の二人のシニアたちの顔は嬉しさと自然とほころんだ(冒頭の写真)。

#### 三日目 天空の稜線散歩

この日は、北岳(標高2位)と間ノ岳(標高3位)を結ぶ標高3000m級の天空の稜線を楽しむ日です。行程もそんなに厳しくないで、アルプスを心底楽しんだ一日でした。幸せです。登った者のみの特権です。

#### 四日目 再度の北岳は晴れて展望最高!

下山は八本歯のコースを選択せず、もう一度北岳を経由して広河原に下るコースを選択。ずばり正解で、北岳は最高の青空で迎えてくれました。



南北のアルプスを毎夏、登り続けている我らシニア登山者を、山の神が見放すわけがありません。南アルプス周辺だけでなく、北北東の遠く彼方に北アルプスの槍・穂高まで顔を出して、シニアの『目標達成』を祝福してくれました。

#### 山行の最終章は「人助け」

ゴールのバス停まで30分くらいのところで、動きが不自然な登山者を発見。疲労で膝がガタガタで歩けない高齢の単独行の女性です。二人で両脇を抱えてバス停までエスコート。長年の大目標の『傘寿・喜寿で北岳山行』を100点満点で無事終了です。

#### 昔物語 ①

##### 1964年 KUWV 夏合宿 南アルプス北部縦走

60年前の大学1年生の夏合宿で、南アルプス北部(塩見岳、間ノ岳、北岳、仙丈岳、甲斐駒ヶ岳)を縦走。この合宿で歩いた北岳～間ノ岳の稜線に感動。忘れられない絶景の一つです。

60年後にもこの稜線を歩くことになるとは、当時想像すらしなかったことです。

## 2015年夏 穂高連峰 緊張の連続 岩稜の難所を踏破

『大キレットや岩稜を超える技術はあるか』『体力は十分か』…などを慎重に検討して、挑戦することを決めたコースです。

- 一日目 上高地→岳沢小屋
- 二日目 岳沢小屋→前穂高岳→奥穂高岳→穂高山荘
- 三日目 穂高山荘→涸沢岳→北穂高岳→大キレット  
→南岳小屋
- 四日目 南岳小屋→南岳→天狗池→横尾山荘
- 五日目 横尾山荘→明神池→上高地



あらかじめ覚悟はしていたものの、一時も気をゆるめることができない岩稜・岩峰が連続する穂高連峰です。岳沢の長い急登で奮闘し、予想以上の難所が続く涸沢岳を超えて、北穂高岳に到着。

ここで、大キレットへの突入を前に、北穂山荘から最新の情報を聞き、またヤマケイの萩原編集長から思いがけない激励を受け、二人はキレット突入を決断。4時間の大キレットとの格闘のすえ、難所中の難所を乗り越えて、南岳小屋に到着できました。

正直なシニアから、自然とガッツポーズが出ました。

(上の写真 バックは大キレット超えの穂高連峰)

### 昔物語 ②

1974年夏 『ビバーク』の穂高連峰縦走

夫婦で、岩峰・岩稜が連なる西穂高岳から奥穂高岳への縦走に挑戦。2日目、西穂高山荘を出発して、西穂高岳を順調に超えたが、天狗のコルを過ぎた頃、妻が急に体調不良を訴えて、前進を断念。風雨を十分に避けられる稜線脇の岩室を見つけて、ビバークを決断しました。

3日目の朝、幸いにも妻の体調が急回復。強い体力・高い技術が必要とするジャンダルムと馬ノ背、奥穂高岳の岩稜・岩峰群を無事通過。上高地まで一気に下山しました(若さとバカさの勝利)。

## 2013年夏 南アルプス南部 でっかい山を黙々と歩く

南アルプスの山はひとつひとつがでっかい。シニアにとってはきつい行程ですが、「若さを発揮できるのは今しかない」と決行を決断しました。

- 一日目 樫島(さわらじま)泊 歩きなし
- 二日目 樫島→千枚小屋
- 三日目 千枚小屋→荒川岳→赤石岳→百間洞山の家 四日目 百間洞山の家→聖岳→聖平小屋
- 五日目 聖平小屋→聖岳登山口

おおむね雨とガスの厳しい山行で、展望は良くありません。テント泊のワンゲル部の高校生たちが激しい雨のために百間洞小屋に駆け込んで、一晩中、小屋がごった返したこともありました。

最も感激したのは、三日目の千枚小屋から荒川小屋に至る行程でのお花畑です。(60年のワンゲル活動で、最も見事なお花の宝庫だと今なお思っています)



### 昔物語 ③

1966年春 『生死』の南アルプス南部PW

大学三年生春の PW。小生の当時の記録ノートこのPWのタイトルは『生と死』という衝撃的なもの。荒川岳への稜線(北側)で、強風と降雪、深い残雪で、前進が難航。また一人のピッケルが折れるという極めてまれなアクシデントで大ピンチ。

エンビー本で掘ったビバーク用の雪洞で不安な一夜。翌朝、雪洞から外を見ると、快晴で目の前に荒川岳がそびえています。『助かった!』と安堵。二年生の小田切さんと木津さんとのある限りの気力・体力が難局から脱出・生還を呼んだのです。小生の60年間のワンゲル活動の中で、最もリスクの深淵に踏み込んだ山行です。

駄文につき、失礼しました。ご意見・質問等、気楽にどうぞ。nabeshima2828@nifty.com

以上